

# 学びの場づくりで地域の活性化

所属：大正大学 地域構想研究所 南三陸支局

氏名：阿部 忠義

## はじめに

南三陸町は東日本大震災後、「自然と共生するまちづくり」を基本理念の一つに掲げ、持続可能なまちづくりに向けて様々な取り組みを行っている。森では、責任ある森林管理していくために、国際的な「FSC 認証」を取得し、海では責任ある養殖の水産物である証となる国際的な「ASC 認証」を取得。また、海水浴場「サンオーレそではま」は国際認証「ブルーフラッグ」を取得しており、志津川湾は湿地の保存に関する国際条約「ラムサール条約」が登録されている。里ではバイオマス施設「南三陸 BIO」を開設し、町民や店舗から排出される生ゴミや糞尿汚泥などをエネルギーや肥料として活用している。

こうした南三陸町をステージに、大正大学地域構想研究所南三陸支局（以下「南三陸支局」）は、一般社団法人南三陸研修センター（以下「当法人」）とともに、宿泊研修施設「南三陸まなびの里いりやど」（以下「いりやど」）の運営に関わりながら、大正大学をはじめとする学校、企業、団体等の受け入れ施設として地域活動と連携し、各種サポート事業を行っている。

## 2023年度の取り組み状況

南三陸町は、森・里・海・人の関係性が近く、持続可能な循環型社会のモデルを創るのに適した環境を兼ね備えていることから、これらの強みを生かした研修プログラムの充実を図るとともに、官民一体となった交流型の地域振興事業に取り組んだ。中でも昨年に引き続きリアル研修となった2023地域創生学部地域実習は2年生10/2-10/13（前期10名）、10/23-11/3（後期9名）、3年生10/2-10/27（2名）を受入れたことは、実習生はもちろん、受入に関わった地域関係者にとっても充実した時間となり、非常に意義深い地域実習となった。また、当法人がコーディネートした企業や大学等団体のリアル研修は33件575人の実績があり徐々に取り戻している。一方、コロナ禍による影響が少なくなったことにより、リモートによるオンラインツアーの受け入れは、12件323人と昨年と比較し大きく減少している。昨年度増築したワーケーション棟は、コワーキングスペースとしての活用に加え、各種ワークショップや木育などの様々な交流型イベントの会場としても利用されるようになり、多様性に備えた宿泊施設としての機能も高まっている。

コロナウイルスの蔓延から3年が経過し、感染者の減少にともなって、いりやどの業績も取り戻している。しかし、大学などの学校関係の利用者数をコロナ禍前と比較すると未だ半分以下に留まっているこ

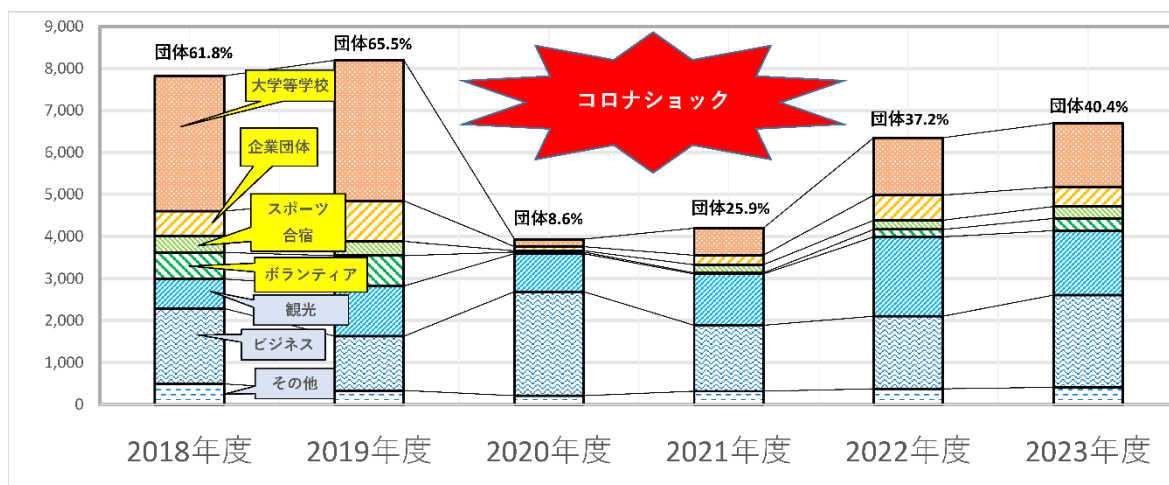


とを懸念している。コロナ禍の影響もあり、生活スタイルや価値観の変化、多様化する社会、旅行費用の高騰など、課題を乗り越えながら、これからの研修プログラムやツアーの在り方について見直し、地域とともに取り組んでいく。また、大正大学のエリアキャンパスであることの原点に立ち、大学とともに新たな視点で取り組んでいく必要があると考えている。

### 南三陸まなびの里いりやど宿泊数調べ(コロナ禍による影響)

2017年度  
8,775名

区 分	団体客数				個人客数			計	入込推移 2018比較
	大学等学校	企業団体	スポーツ合宿	ボランティア	観光	ビジネス	その他		
2018年度	3,225	595	384	633	704	1,797	488	7,826	100.0%
2019年度	3,349	967	337	719	1,199	1,294	332	8,197	104.7%
2020年度	173	100	28	36	909	2,478	209	3,933	50.3%
2021年度	639	226	194	27	1,222	1,571	315	4,194	53.6%
2022年度	1,367	598	221	176	1,886	1,728	375	6,351	81.2%
2023年度	1,521	466	284	292	1,530	2,199	407	6,699	85.6%



### 2024年度に向けての南三陸支局の事業計画案

東日本大震災から13年経過し、町の復興が進み、これからの新たなステージをどう乗り切っていくかが地域の課題である。その課題も一緒に考え、地域内外の連携を深めながら学びの場をつくっていききたい。令和6年度事業の重点項目は下記の通りである。

- 1) 大正大学スタディツアーや地域創生学部・公共政策科等地域実習の受入において、より教育効果が得られプログラムの充実と、地域にも還元できるような提案をしながらコーディネートしていく。
- 2) オンラインとリアルを融合による研修事業を向上させていくための、地域資源を生かした学びのコンテンツ開発と、様々な研修プログラムを推し進めていく。また、大学、企業、地域が連動する交流型振興事業を推進していく。
- 3) 持続可能な開発目標 (SDGs) や 志津川湾の「ラムサール条約」湿地指定登録、森のFSC認証、海のASC認証、ワイナリー、バイオガス施設見学などの環境・循環型社会を目指す南三陸ならではの研修プログラムを更に充実させていく。
- 4) 各種団体を対象としたフルオーダーメイドの研修プランをアピールしていくとともに、スポーツ・アート・サークルを対象とした合宿応援プランなどの集客活動を行っていく。
- 5) 快適なワーケーション環境や受入態勢を整備促進し、南三陸ならではのスタイルを確立していく。また、リモートワークによる二拠点生活(移住)を想定した環境づくりを促進する。
- 6) 入谷地区を核に、学びと創造力を高める交流型の居心地のいい国をつくる「(仮) 里山体験ランド構想」を入谷の活性化協議会とともに推し進めていく。(下図参照)

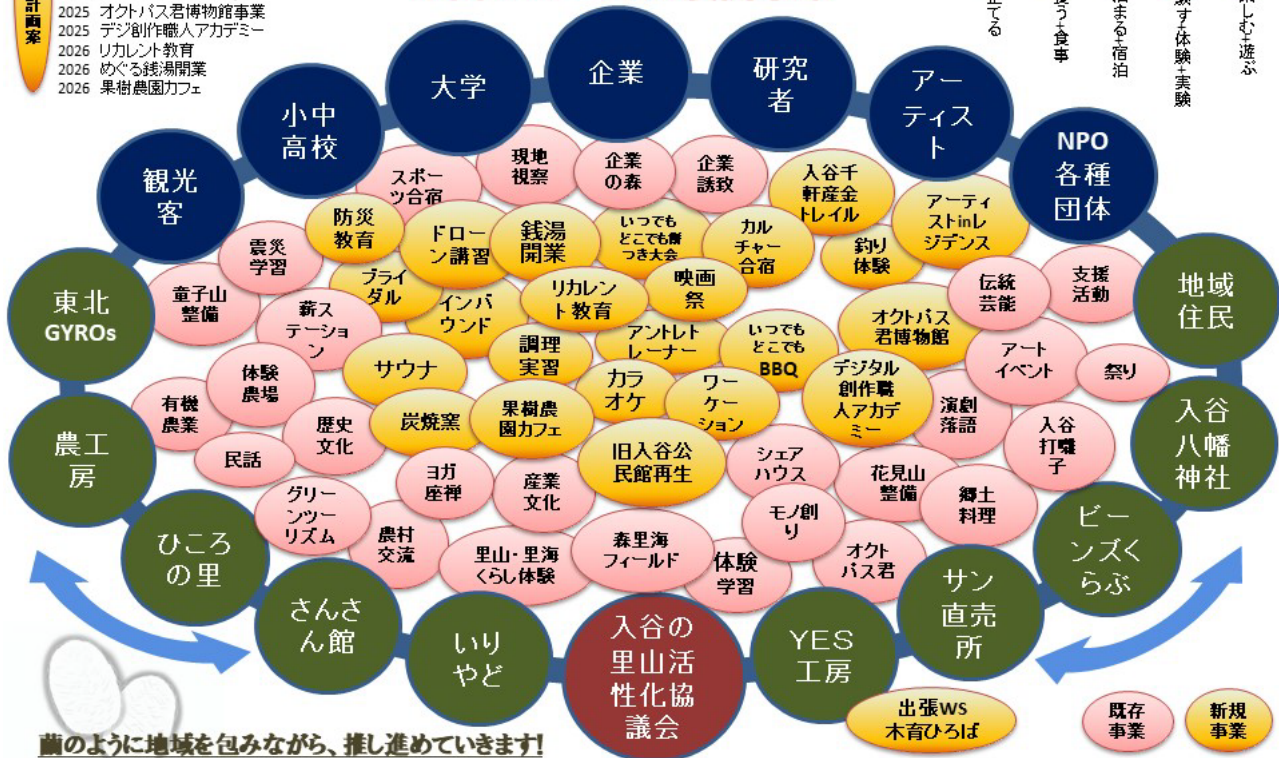
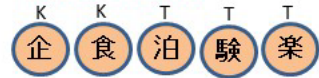
- 2024 ドローン等合宿
- 2024 ワークーション推進
- 2024 南三陸杉サウナ事業
- 2024 デジファブLABO事業
- 2024 入谷千軒産金ツアー
- 2025 旧入谷公民館再生事業
- 2025 オクトパス君博物館事業
- 2025 デジ創作職人アカデミー
- 2026 リカレント教育
- 2026 めぐる銭湯開業
- 2026 果樹農園カフェ

新規事業計画案

# 里山体験ランド構想

## 里山グローバル展開事業

展開カテゴリー2K3T 2024.2作成



菌のように地域を包みながら、押し進めていきます!

上記のように様々な事業を展開し、人と人とのつながりを強化しながら、学びと創造力を高める交流型の「居心地のいい国」をつくる構想プランです。地域内外の受入態勢づくりは、入谷の里山活性化協議会が中心となり、地域をブラッシュアップしながら連携を深めて展開していきます。

震災やコロナ禍の経験から、私たちの生活は多くの人たちに支えてもらって成り立っていることを再認識させられた。「人と人」、「自然と人」、「世代から世代へ」のつながりの大切さを深く感じ、「次の社会を担う若い世代」に恩送りしていくことが、私たちの使命であると考えている。当法人の事業活動を通じて、若者たちが様々な人と関わりながら成長していく機会を提供していくとともに、若者たちが集うことによって地域もまた磨かれていくような学びの場づくりを押し進め、地域の活性化・振興に寄与するものとする。